池上家資料について

池上家資料は、高遠町西高遠鉾持町で酢・醤油などの醸造販売を生業とした商家に伝わった940点以上に及ぶ資料である。

現在、池上家は「伊那市民俗資料館」として公開されており、江戸時代の町家や内部に展示されている生活用具や商売道具を通して、当時の商家の暮らしを今に伝えている。

池上家の祖先は元々、甲州武田家の番匠であったと言われているが、江戸時代初期からは代々鉾持町丁代として、或いは町名主として、高遠城下の町方行政の運営に深く関わっていた。池上家資料の大部分は町方支配に関する資料であり、これらを「（１）町方関係資料」としてまとめているが、江戸時代中期から明治初期までの間に高遠城下で起こった種々の事柄に関することは、ほとんどこの資料の中に見出すことが出来ると言っても過言ではない。

「（１）町方関係資料」の主なる基本的資料には、以下のものがある。

＊御用留書帳　……　元禄～文政
＊諸色御用控帳　……　宝暦～明治
＊御触留帳　……　元禄～慶応
＊丁代諸用留　……　享和～明治
＊諸願書控帳　……　文化～慶応
＊五人組帳　……　享保～慶応
＊宗門人別御改帳　……　宝　暦～明治
＊家筋軒別書上帳　……　天保・安政
＊家数・間数・役付の覚　……　元禄～明治

他にも「伊能忠敬の全国測量関係資料」や「幕末の降札事件（ええじゃないか）関係資料」など興味深い資料が含まれている。

さらに「（３）池上商店資料」には、酢・醤油等の醸造に関する資料と共に各年代の売り上げ帳、出納帳・通（かよい）帳などが残されており、当時の商品の仕入れや流通、またその規模などを知る上で貴重な資料である。

「（２）私家資料」には、明治初期から大正初期にかけて書かれた日記、冠婚葬祭に関する多くの記録、年中行事の献立からお年玉の金額までの覚書等が含まれ、これもまた、当時の人々の暮らしを知るための大切な資料である。

令和７年４月

伊那市立高遠町図書館